

2023年度 一般社団法人那覇青年会議所

貧困課題解決委員会 奈良 蓮

|                         |   |  |            |  |            |   |
|-------------------------|---|--|------------|--|------------|---|
| <p>現 状 分 析</p>          | <p>【沖縄の突出した子どもの貧困と生活困窮の背景】<br/>                 子どもの貧困を相対的貧困で見ると、日本では6人に1人が貧困。沖縄では3人に1人が貧困。沖縄はシングルマザー率と離婚率に加え、失業率も全国1位。非正規就業者の割合は全国平均が38.2%なのに対し、沖縄は44.5%。1人当たりの所得が200万円未満の割合も、全国平均が9.4%なのに対し沖縄は24.7%と最下位。このことから沖縄の貧困への取り組みは喫緊の課題である。現状子ども食堂が那覇市で37箇所以上あり、フードバンクやNPOのシェルターなどの取り組み、社協などの母子支援の取り組みなど支援のあり方は多面的に行われているが、現状を見ての通り充分ということは無い。</p>  |  |            |  |            |   |
| <p>目指すべき状態</p>          | <p>貧困の課題に対する那覇青年会議所内から理解を深め、経営者、経済の先頭に立って戦う私たちが、貧困に対する困窮者の「機会」や「可能性」を大切に、施し、どこよりも誰よりも先頭に立ち率先して行動できる者たちとなる。疑問を抱えたままではなく、私たちが真に喜んで支援を行えるようになることこそが社会変革の兆しであり、目指すべき姿である。</p>   |  |            |  |            |   |
| <p>連携概要</p>             | <p>食糧物資の備蓄先・・・那覇JCや各種企業への協力依頼<br/>                 支援物資の配給先・・・母子寡婦支援団体や社協などに依頼<br/>                 現場参加・・・パーソナルサポートセンターや各子ども食堂へのボランティア参加、NPOへの視察参加により現場学習<br/>                 講演会の実施・・・県内NPOか全国ホームレス支援ネットワークなどから講演者の依頼</p>  |  |            |  |            |   |
| <p>S D G s</p>          | <p>S D G s のゴールとターゲット番号</p>   | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="616 1048 798 1137"> <p>1.2</p> </td> <td data-bbox="798 1048 1450 1137"> <p>2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="616 1137 798 1229"> <p>2.1</p> </td> <td data-bbox="798 1137 1450 1229"> <p>2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。</p> </td> </tr> </table> | <p>1.2</p> | <p>2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる。</p> | <p>2.1</p> | <p>2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。</p> |
| <p>1.2</p>              | <p>2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる。</p>  |  |            |  |            |   |
| <p>2.1</p>              | <p>2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。</p>   |  |            |  |            |   |
| <p>運 動 手 法</p>          | <p><input type="checkbox"/>母子寡婦、子育て世帯支援事業<br/>                 食品、生活用品の提供を行う<br/>                 何をどのように提供するかを話題性、持続性があることを重点に協議し企画する。<br/>                 支援物資の提供先、ニーズの把握に関してはパートナーシップを結んでいる那覇社協と協議する。その上で必要に応じ現場視察を行う。</p> <p><input type="checkbox"/>就労支援事業ー職場体験実習<br/>                 那覇JCの企業ネットワークを生かし、職場体験実習の場を提供する。<br/>                 その際の衣食住の提供や報酬、訓練や就業のために必要なものがあれば提供する。<br/>                 就労への自信をつける一歩目となるような支援を目指しつつ、就労のチャンスを探し就労に繋げる。</p> <p><input type="checkbox"/>貧困課題を理解、共有する場の提供<br/>                 委員メンバーとその方法について協議し、実施する。</p> |  |            |  |            |   |
| <p>カウ ン ター パー ト ナ ー</p> | <p>沖縄県、那覇市、パーソナルサポートセンター、FM那覇、NPO法人プロミスキーパーズ、NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク、那覇市社会福祉協議会</p>  |  |            |  |            |   |

前回までの流れ（意見と対応）

|      |   |
|------|---|
| 意見 1 | 食料支援事業において、食糧支援=食料を現段階で必要にしている層に対しての事業という認識なので、単発よりも複数回あった方が良い認識なのですが、奈良委員長のプロとしての見解を是非、お聞かせください。   |
| 対応 1 | 仰る通りです。複数回あった方が良いと思いますので回数を増やすことも検討したいと思います。なぜ単発と記載したかということ今年度だけではなく「次年度からも継続していけるような持続性」と「青年実業家たちが真剣に貧困と向かい合って社会を変えようとしているような話題性」のある事業を行いたいと思っていたため、それが年間で複数回行えるかとまだ検討段階でした。なので最低限必ず一回やるならば忙しく貧困過程に厳しい歳末にという考えでした。   |
| 意見 2 | 講演会の実施がLOM会員を対象としているが、現状を多くの方々に伝える必要があると考え対外へも講演会を実施してはどうでしょうか。   |
| 対応 2 | 別紙意見シートには下記のように記載しましたが、少しでも力を支援に集中させようと思い、規模の大きい講演会はやめ委員会内の勉強会などにすることにしました。<br><br>意見シートの内容ー経営者や企業に関わる若者を中心とする青年会議所をターゲットにすることにより企業×貧困というフォーカスを当てた今までにない深い熱量で講演会ができるのではと思っています。皆様のご協力で多くの企業参加が見込める場合は対外への講演会も話題性がありとても良いと思います。  |
| 質問 1 | ボランティア団体への参加は、現状を知るために体験してもらうためなのか、それとも単純に人手が足りない状況なのか教えて頂きたいです。また、継続的にやっていく予定なのかも教えて欲しいです。   |
| 回答 1 | 現状を知っていただくためです。事業開始序盤の段階で現状を知り、その後すぐにどのような方法で支援をしていくかの話し合いに比重を置きたいと思っています。  |
| 意見 3 | 必要な事業だと私も思います。貧困対策というより現時点の貧困層に対する支援策を講じる事業が主かと思いますが、是非、那覇社協の上原かおり様と意見交換をしていただけると良いかと思います。<br>2021年に那覇JCは那覇市社会福祉協議会とパートナーシップ協定を締結しています。実際にコロナ禍（緊急事態宣言中）は社協からの依頼に基づき、感染者のご自宅に食料を運ぶといったことをしていました。那覇社協には貧困者情報や物資支援関係の情報もあると思いますし、既に奈良委員長は繋がりがあるかと思いますが、地域にとって必要な事業だと思いますので、具体化するのを楽しみにしています。 |
| 対応 3 | とても素晴らしい那覇青年会議所の連携だと思います。個人的には関わりはありますが、個人ではなく那覇青年会議所の一員として2021年での実績を大切に、積極的に繋がっていかうと思います。  |